

平成 28 年度 第 2 回瀬谷区地域福祉保健計計画 全域計画推進懇談会 議事要旨	
日時	平成 29 年 3 月 8 日 (水) 午後 2 時から午後 4 時
場所	区役所 5 階大会議室 A B
出席者	出席委員 18 名中 14 名
	<p>1. 開会あいさつ (森区長)</p> <p>2. 議題</p> <p>(1) 第 1 回全域計画推進懇談会の報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 事務局から、第 1 回全域計画推進懇談会の議事要旨を説明。 <p>(2) 28 年度全域計画の取組の報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 事務局から、全域計画 PDCA シートの見方の説明。 ◆ 基本目標Ⅱ：福祉保健課長から、健康づくり関連事業の進捗状況を報告。 ◆ 基本目標Ⅲ：総務課長から、災害対策事業・地域防災関係の進捗状況を報告。 ◆ 区社会福祉協議会事業：区社会福祉協議会事務局長から事業の進捗状況を報告。 ◆ 地域ケアプラザ事業：二ツ橋地域ケアプラザ所長から事業の進捗状況を報告。 ◆ 基本目標Ⅰ：高齢・障害支援課長から、地域包括ケアシステム事業の進捗状況を報告。 <p>※ 地域包括ケアシステムは分野別計画であり、地域福祉保健計画は各分野別計画のすそ野部分をカバーするものと説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 生活支援体制整備事業：高齢・障害支援課長と区社会福祉協議会事務局次長から報告。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 28 年度、各地域ケアプラザと区社会福祉協議会に生活支援コーディネーターが 1 名ずつ配置され、地域に共通した課題の解決に向け、各種活動主体と連携し、生活支援の担い手の養成・発掘や新たな活動の創出等に取り組んでいく旨の説明。(高齢・障害支援課長) ・ 地域の活動の状況把握、共通する課題の抽出、地域づくりへの取組等、生活支援コーディネーターの活動状況について説明。(区社会福祉協議会事務局次長) <p>(3) 全事業についての意見交換 (◇：意見等 →：所管課による回答)</p> <p>◇ 認知症キャラバン・メイト養成講座は、区民に身近な区単位で行ってはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> → 事業を所管する健康福祉局高齢在宅支援課に意見の趣旨を伝えていきたい。 <p>◇ 認知症高齢者はいかいネットワークについて、地域から連絡しても、その後のフィードバックがない。心配なので無事帰れたのかだけでも教えて欲しい。匿名化した形での情報提供等、提供者のやる気にも関わってくるので検討できないか。他区の取組(警察と連携し、登録者へインターネットで情報が提供される)も参考になるのでは。</p> <ul style="list-style-type: none"> → 個人情報保護の観点も含め、どこまでお伝えできるのか、所内で確認、検討したい。 <p>◇ 健康寿命と平均寿命の差が 10 年位ある。最近の状況を、区別、地区別に分けて出してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> → 現在の最新データは平成 22 年のもの。健康寿命に近いデータとして、市衛生研究所から公表されている「平均自立期間」のデータがある。最新のものがあれば次回提示する。 <p>◇ 乳がん検診や感染症予防など、健康づくりに関することは、中高年だけでなく子育て層の若い人達も対象として取り組まれていることを明記してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> → 中高年に限っているわけではないが、年齢層を広げてしっかりとすすめていきたい。

- ◇ 地域包括ケアシステムの取組が広がると、ダブルケアを行っている世帯の状況なども、家庭として抱えているケアの状況としてキャッチできるのではないかと。そういう情報が子育て支援の関係機関へつながると、地域と地域で暮らす人の情報が一元化されていく。そのような視点でも取り組んでほしい。
 - ➡ 瀬谷区では総合相談窓口として、こどもから高齢者まで一つの窓口で相談を受けている。民生委員を始め地域の皆様の協力をいただきながら、ケアプラザや各相談機関へ適切につなげていけるよう努めたい。生活支援コーディネーターも地域状況の把握を進めている。
- ◇ ダブルケア世帯への対応として、小規模多機能居宅介護の利用も選択肢のひとつとなるだろう。このサービスはまだあまり知られていないので周知を図ってほしい。相談者ひとりひとりに合った情報の提供ができる仕組みを考えてほしい。
 - ➡ 相談窓口では制度説明用冊子に限らず工夫して説明している。地域ケア会議では、共通する支援の仕組みも検討していきたい。
- ◇ 特別養護老人ホーム（以下「特養」）には、地域の情報が伝わりにくい。地域ケア会議へ特養も参加できれば、地域のニーズにどこまで応えられるか示すことができると思う。
 - ➡ 区レベル地域ケア会議では施設関係者へもご参加いただいている。
- ◇ 瀬谷区の高齢化と人口減について区としてどう対応を考えているか聞きたい。
 - ➡ 都市マスタープラン瀬谷プランでは、人口の多いエリアも、郊外部も生活のしやすいまちを描いている。今後の郊外部の活性化の検討の中で、いただいた意見も含め整理していきたい。
- ◇ 28年度は各ケアプラザの地域交流コーディネーターと生活支援コーディネーターが交替したが、地域で一緒に活動しているので、情報共有など支障が出ないよう配慮してほしい。
 - ➡ 区としても、ケアプラザ運営法人としても、考えていきたい。
- ◇ 危険な箇所が多いので、歩道整備とともに電柱の移設も進めてほしい。
 - ➡ 電柱移設は4～5年かけて地域の皆様と議論を重ね、理解を得て進めていっている。
- ◇ 高齢期のあるしん事業のエンディングノート書き方講座は、個人個人がどう老後を迎えるかを自分でしっかり考えるものであり、すごく効果があると感じた。
- ◇ 学校だけでなく地域の皆様とともにこどもを見守っていくことが必要。地域のお祭りなどの活動にこどもたちが入って一緒に行事を作っていく姿も見られる。こどもたちが地域とさらにつながってお互いにいい関係を作っていけたらよい。
- ◇ 中学生のボランティア活動への気持ちを汲み取るような仕組みができないか。
- ◇ こども食堂や学習支援などの活動が増えてきたが、そういった活動者間の交流や情報提供を積み重ねていくとよりよい地域ができていくだろうと思う。
- ◇ 障害者理解の啓発活動をしている。親亡き後も見据えた障害者の暮らしを皆さんで考える「後見的支援制度」の取組が瀬谷区でも始まったので、連携する取組を考えていきたい。
- ◇ 発災時、地域防災拠点において、障害者が落ち着いて過ごすためにどう工夫するか、といった視点も取り入れていただきたい。区内は道が狭く、移動に支援を要する方への対応も検討が必要。
- ◇ こどもの貧困対策として、寄り添い型学習支援事業について、区としてどう考えているか。
 - ➡ 今年度から取り組んでいる。計22人の中学生が参加。中学3年の20人は全員志望する進路へ進むことができた。次年度は定員枠を拡大して事業を進めていく。

- ◇ 放課後キッズでの学習支援とこのシートにある学習支援とは別なのか。なぜ放課後キッズは記載がないのか。
 - ➡ 別である。放課後キッズは法人と地域の力を活用するまで至っておらず、今年度は取り上げていない。来年度以降は地域の方へも参加していただき、広がりを持った形としたい。
- ◇ ぜひ、ぽかぽかプラザでの学習支援も含め、全体的に進めてほしい。
 - ➡ 学習支援ネットワークへはぽかぽかプラザへも参加していただいている。
- ◇ 次年度以降ぜひこのシートに記載されるようお願いしたい。
 - ➡ はい。
- ◇ 瀬谷区の地域福祉保健計画には個別の事業は書かれていないが、各事業所管課、所管機関がそれぞれ計画該当事業を抽出してこの懇談会で報告するスタイルを取っている。アウトプット指標だけでなく、「どんな効果があったか」といったアウトカム指標も文章で書かれている。それらについても注目していきたい。

3 平成 29 年度の予定について

事務局から今後の予定を説明。